卒業論文(PBL)に関する評価の基準

卒業論文の審査体制・方法について

「卒業論文(PBL)」は、学部4年生を対象とした必修科目の1つで、いずれかの研究室に所属して、教員および大学院生の指導のもと、各研究室が推進している研究プロジェクトをこれまでに修得した学問を駆使して遂行するものです。

＜審査方法＞
本科目は大学で学んだ学問の総仕上げに位置づけられ、学生は1年間の卒業研究を通して得られた成果を卒業論文ならびに抄録にまとめるとともに口頭発表会を行うことを前提とし、それらの内容の審査を受けます。

＜審査体制＞
1年間の卒業研究取り組み状態と、その成果である卒業論文と抄録ならびに口頭発表の内容は指導教員の審査を受け、その結果として「卒業論文(PBL)」の単位が授与されます。

卒業論文の満たすべき基準について

情報学部		・学部の卒業論文の審査では、工学院大学学則の定める修得単位数を満たしていること。 ・所属する学科の研究領域において専門知識・専門技術を身につけ、現代社会の問題から解決すべき課題を抽出でき、それに取り組む姿勢を備えている。 ・課題解決に必要な論理的思考力や分析力があり、解決策が立案できる。 ・日本語を用いて、自らの考えを論理的にまとめ、適切に表現できる。 ・人間社会と科学技術との関わりを多面的に捉えられ、社会や職業についての知識や技術者として必要な倫理観を備えているかどうかを基に審査する。
情報通信工学科	学士 （工学）	情報通信工学に向けた数学の知識を有し、工学問題に応用することができる。 電子回路および電子デバイスに関する知識を有し、工学問題に応用することができる。 通信ネットワークに関する基礎知識を有し、工学問題に応用することができる。 デジタルメディアやソフトウェアに関する基礎知識を有し、工学問題に応用することができる。 情報通信工学に関わる知識を活用し、課題の分析と解決案を実証できる。 電気通信に関わる法規や知的財産についての知識を有している。
コンピュータ科学科	学士 （情報学）	情報社会、情報システムの変化に対応できる計算機の基本概念を身につけている。 情報社会、情報システムに対応できる基礎知識を身につけている。 情報システム、情報機器に対して、プログラミングの知識を応用できる。 情報システムにおけるソフトウェアの企画、設計、運用に対応することができる。 情報システムを用いた種々の応用に取り組むことができる。 情報システムの情報セキュリティ構築の基礎を理解できる。
情報デザイン学科	学士 （情報学）	人と情報社会についての包括的な知識を身につけている。 人間の認知的側面を理解し、未解決の問題を適切に解くことができる。 デジタルコンテンツの情報社会での応用ができる。 社会や個人から得たデータの特性を理解することができる。 社会や個人から得たデータの分析方法を考えることができる。 情報社会の問題解決方法と道すじを論理的に説明できる。
情報科学科	学士 （情報学）	情報システムのアーキテクチャ/方式設計ができる。 情報システムの機能/非機能設計ができる。 数理統計に基づくデータの分析ができる。 実社会の問題を解くためのアルゴリズム設計ができる。 社会や企業の問題に対するICTを活用した解決方法を設計できる。 ビジネスモデルや企業戦略と関連したICTの活用方法を設計できる。